

(別添)

参考：最近のガザ地区を巡る情勢

平成20年1月22日

1. ガザ地区の封鎖の現状

07年10月末以降、イスラエルからの燃料供給が段階的に削減されており、08年1月20日、燃料不足のため同地区唯一の発電所が稼働停止した。その結果、同地区の半数以上に当たる約80万人の住民が、電気がない生活を余儀なくされている。同発電所は必要電力量の1/3を供給、残り2/3に相当するイスラエル及びエジプトからの電力供給は継続。

人道物資等の搬入は不十分な搬入量ながら継続していたが、1月17日、イスラエルは、パレスチナ武装勢力のロケット攻撃への報復として、ガザ地区・イスラエル間の通行所の閉鎖を決定。ただし、エレズ通行所は、パレスチナ患者の移送のため完全には閉鎖されていない。

国連等人道支援機関は、封鎖により物価上昇及び商業活動の壊滅を指摘。商品作物の輸出が出来ないため、農家の8割が農業を放棄せざるを得ない見通し。

2. 最近のイスラエル軍の攻撃とその被害

08年1月以降もイスラエル軍のパレスチナ武装勢力による攻撃は継続しており、15日には民間人4名を含むパレスチナ人19名が死亡。16日には誤射により民間人親子3名（イスラエル軍は誤射を認めた）が死亡。

18日にはPA内務庁庁舎を空爆、付近の住民1名が死亡、40名以上が負傷。15日以降20日までに、死者だけでも、民間人約11名を含め約40名に達した。

3. 最近のパレスチナ武装勢力の攻撃とその被害

08年1月1日から15日までに、42発のカッサム・ロケットがイスラエルに向け発射、イスラエル領で子供2名を含む4名が負傷。また、迫撃砲約35発が発射。3日には初めてアシュケロン北部にまで着弾し、射程の延長が懸念されている。

15日には、ハマスの銃撃によりイスラエル領内のキブツで活動していたエクアドル人1名が死亡。その後もロケット攻撃は継続、15日以降、20日までに140発以上のロケットが発射されているが、19日以降はその数が著しく低下している。

(了)